

平成27年度 第4回山縣市まち・ひと・しごと創生会議 会議録（要約）

【日時】 平成27年9月30日（水） 14:30～16:30

【場所】 山縣市役所3階大会議室

【出席者】 （委員） 竹内 治彦 （岐阜経済大学副学長）《会長》
黒見 敏丈 （岐阜女子大学 教授）《副会長》
高橋 信夫 （市自治会連合会代表（市自治会連合会副会長））
高橋 清仁 （市校長会代表（伊自良中学校校長））〔代理出席〕
佐伯 岳人 （ぎふ農協 高富支店長）
早川 徹 （株式会社水生活製作所 代表取締役社長）
近藤 貴紀 （十六銀行 高富支店長）
小島 明 （大垣共立銀行 高富支店長）
小木曾 浩 （岐阜信用金庫 高富支店長）
木村 麻理 （社会保険労務士）
浅野 修司 （岐北厚生病院 事務局長）
丹羽 英之 （市社会福祉協議会 会長）
武藤 行儀 （岐阜乗合自動車 取締役）〔代理出席〕
今瀬 義幸 （元岐阜県職員）
宇野 邦朗 （市副市長）

（計15人）

（事務局） 久保田企画財政課長
谷村企画財政課主幹
渡瀬企画財政課係長
十六総合研究所

【欠席者】 （委員） 宇野 睦 （市商工会 会長）
大家 実 （岐阜公共職業安定所 雇用開発部長）
松田 尚康 （岐阜新聞社 本巣支局長）
督 あかり （中日新聞社 記者）

【議題】 1 会長あいさつ
2 議事
・山縣市版人口ビジョン及び総合戦略策定について
3 その他

【資料】 資料1 レジユメ（創生会議次第）
資料2 山縣市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定についての意見
山縣市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

■ 会長あいさつ

■ 議事 山縣市版人口ビジョン及び総合戦略策定について

〔山縣市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

前半〔人口ビジョン部分〕について事務局から説明〕

○会長 先回、合計特殊出生率の目標値を定めるかについては、議論の途中だった。市の内部の会議においても、合計特殊出生率についての目標値を定めることはしないで、人口がどうなるのか、人口構成がそうなった時には、こういうふうになるということを推計して、それを目標にしていくということになり、その方針で人口ビジョンはまとめられた。人口ビジョンはある意味推計である。これについてはこの会議でご承認頂いたということで進めて頂ければと思う。

〔山県市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

後半〔総合戦略部分〕について事務局から説明]

○会長 時間が限られた中で今日決着を目指したい。皆さんから意見を頂き、評価の部分も込めて私からお話しながら議論を進めていきたい。基本的に今の事務局案に賛成である。「みな」という表現は「みんな」という表現にした方がいい。基本目標1「みんながいきいき！」の数値目標（P41）としては「出生数」が、それなりに一番良いと思う。続いて、基本目標2「みんなでいつまでも！」（P47）は、転出超過人数を減らすという形の数値目標ということで、「転出超過人数」が理解できる目標かと思う。基本目標3の「みんなが活躍！」（P56）の数値目標の「製造品出荷額」については、例えば従業員数とか雇用数とかの方がマッチするような感じがする。基本目標4の「みんなを呼び込む！」（P61）は交流人口ということで比較的納得度の高い数値だと思う。最後の基本目標5の「みんなに安心！」（P68）については愛着指数に変更するとのこと。この基本目標5は情緒的な部分が多くなかなか客観的な数値が取れないので、いっそ数値目標は無くてもいいのではないかという考え方もあるが、出すのであれば、市が定点観測的に様々な意識調査等をされると思うのでそこで数値を取っていく。ファジーな調査でも、数値目標としての設定もありうるものと受け止めている。ここで決を採っていかなければならないが、基本目標1（P41）に戻り、基本目標の1「みんながいきいきと！」、数値目標「出生数210人」で異議はないか。それでは、基本目標1については、提案の通りとする。続いて基本目標2「みんなでいつまでも！」（P47）、数値目標「転出超過人数」、これについて異論はないか。

○A委員 言葉もすべてということか？

○会長 言葉もすべてということ。ただ、細かい表現や微調整については事務局一任でいいと思う。この会議で綿密に決めなければならないことでもない。大きく変わるのであれば、この会議での議論の対象になると思う。

○A委員 基本目標1（P41）の基本方向の中で「女性の活躍」と特別に謳ってある。今の流れといえば流れだが、どちらかと言うと、内容的に雇用ではなく、子育て支援の内容が非常に多いような印象を受ける。「女性の活躍」は言葉的には、基本目標3「みんなが活躍！」（P56）に入るのではないか。

- 会長 基本的方向の文章も併せて触れていかなければならない。その点欠いていた。特に「子育て支援」の部分で「女性の活躍」としてしまうと、子育ては女性がやるものだという決め付けになる。ここは若干修正された方が良い。また、子育て支援の中に男性の概念も含めて検討して頂く。女性のことだけではいけないので。
- A委員 基本目標1「みんながいきいき！」の数値目標（案2）「女性従業者数」（P41）は、基本目標3「みんなが活躍！」の数値目標（P56）へ持ってくるのが妥当ではないか。また、基本目標の2「みんなですべて」（P47）の数値目標として「25～39歳の女性人口」とあるが、年代的な区切りの目標でなくてもいいのではないか。
- 会長 基本目標1「みんながいきいき！」の数値目標については、（案1）を採り（案2）（案3）は削除ということ。よって「女性従業者数」や「25～39歳の女性人口」は消えるということ。基本目標1の基本的方向の「女性の活躍と子育て支援」という文言については、「女性の活躍」＋「子育てを様々な形で支援していく」ということで、もう少し幅広な表現をお願いしたい。事務局にお任せする。
- 事務局 今の箇所は、市本部会議でも出たテーマの一つ。同様の趣旨であり、相談させて頂きたい。
- 会長 続いて基本目標の2「みんなですべて！」（P47）。意見無ければ、この方向で進めさせて頂く。続いて、基本目標の3「みんなが活躍！」（P56）の地域の活性化と雇用創出について。
- 事務局 補足宜しいか。基本目標3の数値目標「製造品出荷額等」については、製造品の出荷額だけなので、他産業を置き去りにして、製造品だけでいいのか？という議論が実はあった。ただ工業統計は毎年、経済センサスは5年に1度なので、より検証していくには、割り切って、工業と他産業も関連しているものと信じていこうかと。また、基本的方向の文面については分かりにくいということで少し変えたいと思う。
- 会長 文章はもう少し練って頂くのが良い。山口市で、工業統計が、山口市の産業力を象徴しているとは思えない。産業都市は、岐阜県の中では、各務原とか大垣とか。
- 事務局 23ページの資料で、一応、製造業はシェアが高いことは高い。
- 会長 従業員数はダメか。就業者数とか。国勢調査にはあるが。
- 事務局 国勢調査や経済センサスにはある。ただ5年に1回なので。

- 会長 アメリカの統計であれば、雇用者数。地域の元気を示すには、雇用が増えているか減っているかで見るのが一番。また、工業品出荷額は他の要因で変わってしまう。
- A委員 数値が取れるところでいいと思うが、雇用数が一番いいのではないか。
- 会長 これは毎年データを取らないといけないのか？
- 事務局 設定は自由。最終は5年後。おそらく平成31年に、経済センサスの基礎調査があり、その手前の平成29年に、ひょっとしたら活動調査が出て発表が30年くらいになるかもしれない。その1点だけ見定めて、目標を定めるということもありうると思う。
- 会長 国勢調査は5年に1度ということで、少し使いにくいとは思う。
- 事務局 他に異論なければ、従業者数にする。ただし、何を入力するかということについては、検討したい。
- 会長 「みんなで活躍！」なので、やはり就業者数ではないかと。それが一番しっくりする数字だと思う。そのかわり、国勢調査とのタイミングをどうするかは検討頂き、市の活力、働くという面での活力をよりよく示した数値を何か出して頂きたいと思う。続いて、基本目標4「みんなを呼び込む！」（P61）は交流人口がテーマです。異論なければ、このような形で進めさせて頂きたい。それでは最後、基本目標5「みんなに安心！」については、数値目標を「愛着感」にするということでした。
- 事務局 「愛着感」のベースは、第2次総合計画策定時の市民意識調査。5年後の29年度か30年度に同じ調査をしたい。
- 会長 基本目標5「みんなに安心」は、正直なところ漠然としていて、内容も広範囲に渡るため、それを全部取りまとめた数値が「愛着感」と言われるとフアジーだと感じる。山県の安全安心を象徴するものは何か？もう少し絞れるのではないだろうか。
- B委員 福祉の部分、セイフティーネットの部分で、山間部と高富の地域性の違いによって、安全安心感が非常に違う。そういう地域特性に対してどういうふうに考えるのかというのが見えてきていない。
- C委員 ここの安全安心は、掲載施策を見ていくと、ハード面、基盤整備が殆どを占めている。数値目標はその関係のものを作らないといけないのではないか。ただ、安心を一つだけの指標で示せるかということ無理な話ではないか。

○事務局 基盤整備と言えば、暮らし易さに繋がるもの。暮らし易さを置くべきかもしれない。

○副会長 安全安心は、他の戦略施策のベースになっているもの。わざわざこの柱を立てる必要があったのか。これを無くして、中の個別の指標を他の関連している部分に入れ込んでしまった方が整理がつくのではないか。

○A委員 指標としては、顧客満足度に当たる市民の声が何%だったよということで、総合計画と照らし合わせるというのは、ある部分必要ではないかと思う。

○会長 副会長の発言、私も理解できるが、それだけ大きな変更というのはなかなか重たい。指標も確かに顧客満足度という点で、意識調査的なものが一つ入っても良いと思う。まさに業者の顧客満足度調査であり、腹に落ちるところでもある。ただ、愛着度よりも、暮らし易さの方が、指標としては良いような気がする。では、テーマの言葉、基本的な方向、数値目標という大きな所について議論頂き承認頂いたということで宜しいか。そういう形で進めて頂くことにする。

○D委員 自分の母校に愛着があるかどうかは、学校に誇りを持てるかどうか、また、文化度の問題だと思う。同様に、市でも、どんな文化を持っているかということがすごく大切だと思う。文化度のインフラとして、どんなものが整備できるかという発想が少し必要だと思う。つまり、日常の生活の中で文化度が感じられる所、街並みや田んぼ道でも愛着を感じる文化があるかもしれない。誇りが持てる街並みとか、誇りや文化度とか、そういう指標が欲しい。そういうアプローチをすると、もっと面白くなっていくと思う。

○会長 私も同様の感じを受けた。シティプロモーションというか、キーワードとしては、シビックプライド。基本目標4で、交流人口を呼び込むその前段階として、住民が在所のプライドも持ち、良さを認めることがまず先にあるのかなあと思う。住むのには良い所だという観念を定着させていかなければいけない。シティプロモーションで情報発信するよりも前に、出て行く人を減らさないために、シビックプライドを醸成していく必要がある。シビックプライドは比較的低予算のソフト事業でできる話。住民の皆さんに集まって頂いてワークショップをするとか、そういう所からスタートだと思う。ご検討頂ければと思う。

〔C委員提出資料に基づき、C委員から説明〕

○会長 たくさんご意見、ご提案を頂いたが、市で検討頂き盛り込めるものがあれば対応頂くという形でお願ひする。ただ、やはり、交流人口を高める前に、市民の一体感と、シビックプライドを高めることを、目標設定・事業設定す

る必要があると私は思う。

○A委員 43ページの「共働き支援」。あえて、共働きというふうに拘らなくてもいいのではないか。

○会長 共働き支援を、行政が書くかという微妙な気はする。

○E委員 シングルマザーが増えてくる。そういった人の支援も必要なので、ここであえて共働きにする必要はないと思う。

○会長 単に「女性の就職支援」で良いのであって、共働き支援って何だろうと。具体的な事業も思い浮かばないので、ご検討頂いた方がいいかもしれない。

○B委員 やはり山県には文化が無い。郡上には文化がたくさんあり市民は愛着を持っている。子どもに何をもって高富の良さを伝えていったらいいのかというのが、そもそも分からない。山県の文化は、北山の「雨乞い太鼓」、葛原の「葛原太鼓」、伊自良北の「十六拍子」など、過疎地域にしかない。しかし、この過疎地域にある文化が山県市の宝にならないだろうかと、高富の人にとっても宝にならないだろうかと考えている。子どもの絶対数が少ない中で、高富の子ども達の力を借りるというのも一つ手かと思う。そして、山県市の宝をもう一回見直して欲しいと思う。

○C委員 63ページの「休日滞在人口」がよく分からない。

○事務局 補足で書き込みたいと思う。平日に対して休日何倍居るかという数値のこと。今、リーサスというビッグデータを活用した国のシステムがあり、そこを利用しようと思っている。スマートフォンにアプリを入れ、それを持った人が、ある市町村に2時間以上滞在したとなると、1人とカウントするシステムで、ランキングで表示されたりする。

○A委員 基本目標2の移住定住支援というのも、非常に大きな目標だが、総合計画にも掲載されている「宅地・住宅の整備の促進」がメインではないかと思う。そういう所の目標設定がないと、数値目標の転出超過人数200人と繋がりが非常に弱いなあと感じる。

○事務局 やはり現在、空家が多くなっており、その活用に重点を置きたいという思いがある。住宅、宅地の新たな導線については検討する。

○B委員 43ページの「男女共同参画社会の推進」。残るKPIが「延長保育の利用者数」ということだが、女性活躍推進法もあるので「女性委員等の登用率」の方が妥当ではないか。

- 事務局 「女性委員等の登用率」は、市の職員のことだけなので、あえて、拾わなかった。
- 会長 この部分は、上の「女性の就業支援」に寄せておいても良いのではないかという考え方もあるので、その点も含めてトータル的に事務局で検討頂くということでお願いします。
- A委員 先程、基本目標5の数値目標を「愛着感」にするということだったが、「愛着感」とその下のKPIの繋がりが弱い気がする。
- 事務局 例えば、KPI「交通事故死亡者」は「愛着感」とは繋がらず、「暮らしやすさ」に変更する方向。「まち美化パートナー」で街中を綺麗にしたり、「交通事故」を減らしたりして、安心して暮らせるようにする。
- 会長 確かに暮らしやすさ住みやすさということにすると、ブレイクダウンしたKPIとしては良いと思う。少し気になるのは72ページの「水洗化率」「道路改良率」。中長期的なまちづくりとしては「小さな拠点」であると国交省が言うように、インフラをどんどん整備して、水洗率を高めるということではなく、これからは、高めることができないから、街中に住んで下さいということですよ。その点少し疑問に感じる。この点は、市の方で詰めて頂きたい。
- F委員 70ページに「住宅用火災警報器設置の条例適合率」とあるが、新築住宅はほぼ100%適合されているので、本来は100%を目指すところなのではないか。
- 事務局 条例上は設置を命じているが、罰則規定が無く、現実問題としては付けていない家が多い。
- 会長 そうであれば、目標値80%というのは、ありうる数値かと思う。
残された基盤整備の部分が多くて、かつ専門的な内容だと思うので、もう一度市でご検討頂いて最終的にまとめて頂ければ良い。
本日は、種々議論頂き大筋で確認できた。早々にパブリックコメントに進むということなので、事務局において、場合によっては会長・副会長に相談を頂きながら、最終的なとりまとめにしていきたい。また、本日発言頂いた意見をなるべく汲み取りつつも、限度もあるので、そういった点についても事務局一任という形で進めさせていきたい。
- 事務局 今のところパブリックコメントを、10月5日（月）から10月23日（金）までの3週間、ホームページ等で周知したい。次回創生会議は、10月26日の午前9:30。そこで最終結論を得て、答申頂きたいと思う。本日はありがとうございました。

(終了 16:30)